

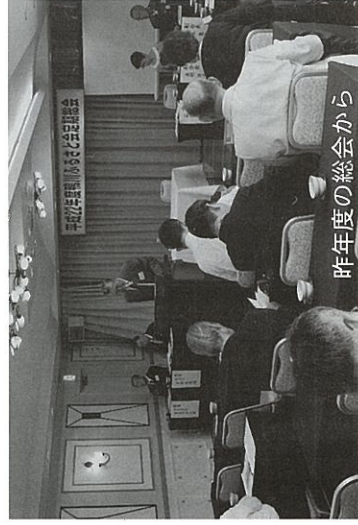
# 鴨川ふるさと会だより

— 第6号 —

鴨川ふるさと会事務局発行：〒296-8601

千葉県鴨川市横渚1450番地(鴨川市役所企画政策課内)

TEL:04-7093-7828



昨年度の総会から

平成  
23年度

## 定期総会と 郷土史講演会を開催します ～7/31(日)に都内ホテルで～

当日は、鴨川市出身の石田三示衆議院議員に会の「顧問」として就任いただく予定です。昨年度の総会では石田議員を来賓としてお招きし、地域振興への熱い想いを語っていただきました。

顧問就任後は、大山千枚田を舞台に都市・農村交流に取り組まれた豊富な知識と国政での経験を活かし、ふるさと会と鴨川市の発展にご活躍いただきます。



石田衆議院議員が  
ふるさと会の「顧問」に

### 会の方向性を決める 重要議案を審議します

鴨川ふるさと会の平成23年度定期総会を7月31日(日)、ホテル銀座ラフィナート(旧京橋会館)で開催します。

総会では、平成22年度の事業報告や決算報告、23年度の事業計画(案)、予算(案)のほか、会費制を導入するための会則の改正(案)など、会の方向性を決める重要案件の審議が予定されています。

### 片桐市長との懇談会や 「嶺岡牧」の講演会も

今年度は第2次5か年計画のスタート年度であることから、総会終了後には片桐有而鴨川市長を招き、将来の鴨川のまちづくりについて、会員との懇談の機会を設けます。

どうぞ、ふるさと鴨川の発展に、日ごろ皆さんがお持ちのご意見やアイデアをご提言ください。

ティープレイクの後は、ふるさとこの歴史に対して皆さんの理解を深めてもらおうと、「嶺岡牧が鴨川の未来を切り拓く」をテーマに講演会を行います。平安時代にはすでに存在したといわれ、江戸時代には幕府によって直轄経営された「嶺岡牧」。その実態を

平成23年度 鴨川ふるさと会定期総会

期日：平成23年7月31日(日)

時間：午後1時から4時30分まで

会場：ホテル銀座ラフィナート  
(東京都中央区)

会費：3,000円(ちよびりプレゼント付き)

主な内容：

- ① 定期総会
- ② 石田三示衆議院議員の顧問就任式
- ③ 市長による市政概要の説明
- ④ 「市長と語る鴨川の未来」をテーマに市執行部との市政懇談会
- ⑤ ティープレイク(会員同士の懇談タイム)
- ⑥ 「嶺岡牧が鴨川の未来を切り拓く」をテーマに東京大学大学院・日暮晃一教授の講演

### 7月15日までに「連絡を

総会への出欠については、同封の出欠票により事務局へご連絡ください。会場準備等の都合上、7月15日(金)までに返信くださるようお願いいたします。

探るべく、市では昨年度、牧の全体調査に着手しました。その結果、嶺岡山中には現在でも、馬を囲うために作られた約28坪にわたる野馬土手など貴重な歴史的遺物が存在していることが明らかになりました。

当日は、この調査の中心的な役割を果たした東京大学大学院の日暮晃一教授から、嶺岡牧の歴史的価値や地域資源としての可能性についてのご講演をいただきます。

## 地域力再生を めざし

# 第2次5か年計画がスタート

平成23年度から27年度までを期間とする鴨川市の新しいまちづくり計画「第2次5か年計画」が、4月からスタートしました。この計画は、市の将来像を「自然と歴史を活かした観光・交流都市」と定めた基本構想（平成18～27年度）の後半5年間を担うものです。会員皆さんからはアンケート調査にご協力いただき、その結果を「ふるさといきいきコミュニケーションタウン構想」として取りまとめ、市長への提言もいたしました。ご協力に感謝申し上げますとともに、新5か年計画で重点施策に位置づけられている「地域再生プロジェクト」の概要についてお知らせします。

## 4つの地域力再生 プロジェクト

1

6次産業化  
と農工商連携  
による産業力  
の再生

高品質農林水産物の安定供給の推進／農林水産物の高付加価値化と食品加工や企画・開発への支援／生産基盤の強化・充実／地産地消の推進／多様な販路の拡大／「6次産業化」事業の積極的な支援

2

定住の促進  
による市民力  
の強化

U・J・I・タウン就職の促進／ふるさと帰郷支援センター・田舎暮らし支援事業の推進／新築住宅取得の促進／地元大学・専門学校との連携の強化／新規就農・漁業就業の促進と起業環境の整備

3

"ホリスティック  
ツーリズム"  
による新たな  
交流の創造

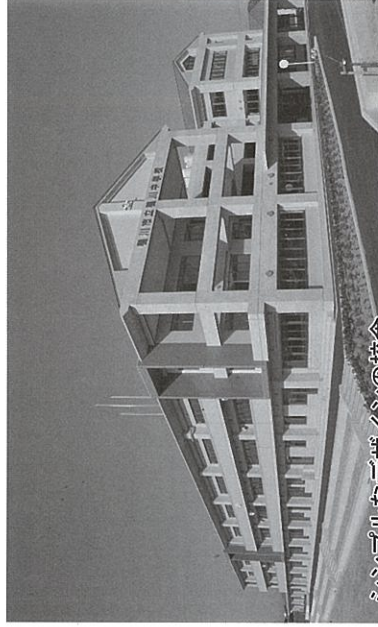
"豊かな暮らし創造型ツーリズム"の推進／多様な市民の主体的な参加の促進／市民生活に根ざした観光資源の充実／ふるさとの歴史・文化の再評価と市民への情報提供の充実／ホリスティックツーリズム推進のための拠点機能と社会資本の充実

4

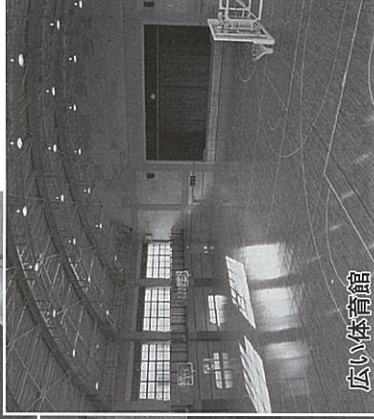
地域力の基盤  
となる住み良さ  
の追求と暮らし  
満足度の向上

都市基盤の充実／環境の保全と美しいまちづくり／消防・防災対策の充実／地域医療環境の充実／学校教育の充実／市民・地域の協働によるきめ細やかな健康・福祉対策の充実／新市民会館の整備など

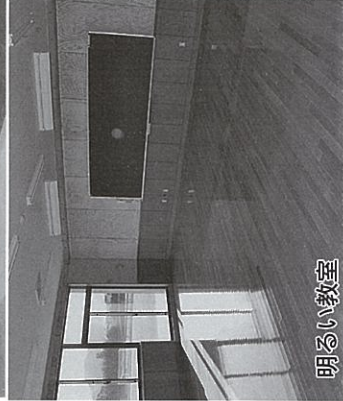
※第6次産業（造語）＝農林水産業者の方が、商品加工や流通・販売など第2・3次産業に関わり、農林水産業の効率化と活性化を図ろうというもの



シンプルなデザインの校舎



広い体育館



明るい教室

## かもがわ トピックス

# 新「鴨川中学校」が 開校しました

市庁舎北側に整備を進めてきた江見中学校と鴨川中学校を統合した新しい「鴨川中学校」が、4月1日に開校しました。新しい学舎は鉄筋コンクリート造3階建て、延床面積8642平方メートル。シンプルな構造とデザインが特徴です。トイレをはじめ各所にバリアフリー化が施されているほか、太陽光や雨水を積極的に活用する「エコスクール」ともなっています。

敷地内には大会や試合に利用できる両翼90mの野球場を

はじめ体育館、武道場、テニスコート、陸上トラック（内側にはサッカー場）など充実した運動施設が整備されています。

新学舎で勉強・部活動に励み、仲間たちと切磋琢磨しながら成長していく約530人の生徒たちを、今後も温かく見守ってください。

# 震災・風評被害に負けるな! 頑張る鴨川にご声援を

東日本大震災と福島第一原発事故を受け、会員の皆様から「揺れや津波による被災状況は?」「被災者の支援・受け入れは行ったの?」「夏の観光シーズンに向け放射能の測定は行っているの?」など、ふるさと鴨川の安否を気遣うお問い合わせを数多くいただきました。  
このページでは、鴨川市の被災状況や被災者の受け入れ、風評被害への対応などをタイジエストで報告します。

## 鴨川市の震度は「4」

### 人命・建物の被害は無し

地震発生時、鴨川では震度「4」を観測。市では午後3時に対策本部を設置し消防団などと連携して海岸沿いのパトロールを実施するなど津波への警戒を強めました。鴨川漁港などで1〜2倍の津波が確認されましたが、幸い人的被害などはありませんでした。

市では16か所の避難所を開設し、自主的に一時避難した191人を受け入れました。うち48人は観光客を中心とした帰宅困難者でした。

## 避難者受け入れに

### 「鴨川方式」が高評価

福島県などからの避難者を受け入れるため、市では大山地区の青少年研修センターや災害時避難用住宅での受け入れを進めました。また、鴨川青年の家やかんぼの宿をはじめ



避難者の健康チェックを実施  
(青少年研修センター)

め、旅館やホテル、ペンションなどでも低料金を宿泊できる態勢を整えるなど、多いときには600人を超える避難者を受け入れました。

特に、いわき市の介護老人保健施設の患者受け入れでは、患者やスタッフを分散させず、施設まるごとの避難を実現。この画期的なやり方は各種メディアなどで「鴨川方式」と呼ばれ高い評価を受けました。

## 原発事故の風評被害

### 観光関連業に大打撃

地震による直接被害はなかったものの、原発事故に伴う風評被害や消費の自粛ムードが市内の各種産業に大きなダメージを与えました。宿泊施設ではキャンセルが相次いだほか、魚介類や農産物の価格が大幅

に下落。鴨川漁協からは、新鮮で安全な鴨川の魚をPRするよう市長に陳情書が提出されました。

また、水道水や学校のグラウンド、海水などへの放射能の影響を懸念する市民の声も多く、鴨川の食や生活環境の安全性を広くかつ早急にPRする必要が生じました。

## 鴨川の安全・安心を 市内外にアピール

そこで市では、大気・水道水・海水・農産物・水産物などについて県とともに放射性物質濃度の調査を継続的に実施。いずれも安全性が確認されており、その結果は市ホームページなどで随時公表しています。

さらに、市では4月に2億円規模の補正予算を組み、地元農海産物をはじめ食材の安心安全のPR、鴨川の魅力アップを図ろうと、官民が一体となって「元気鴨川あんしんキャンペーン」を実施しています。

具体的には、地元観光協会や商工会など9団体が組織する「緊急経済対策連絡協議会」が、減少している観光客を呼び込み地域経済の活性化を図ろうと、宿泊や買い物などに

利用できる「元気鴨川商品券(1人あたり5000円)」の配布を7月31日まで行っています。また、8月1日からは市内観光施設で利用できる「ファミリーチケット(1人あたり1000円)」の配布を開始する予定です。

このキャンペーンは、東京都荒川区・板橋区やさいたま市など姉妹友好都市を中心に展開され、そのPRには新聞広告やマスメディアを積極的に活用していきませんが、何にも増して口コミによるPRが大変効果的です。

どうぞ、鴨川市の取り組みをご家族やご友人など多くの方に紹介いただき、誘客活動にご協力ください。



# ふるさと会の運営に関する 会員アンケート調査結果

報告  
します

設立から10年以上が経過し、会員数も400人を超えた鴨川ふるさと会。理事会では今後の会の運営方針の参考とするため、総会の開催場所や会報の回数、会費制の導入などについて全会員を対象にアンケート調査を実施しました。会員皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、ここに調査結果の概要を報告します。

調査対象	全会員
調査方法	郵送調査法
調査期間	平成22年12月から 平成23年1月まで
回収率	25.3%

**問1** 総会の開催場所の希望を教えてください。

○東京都内	30.21%
○鴨川市	12.50%
○交互開催	53.13%
○その他	2.08%
○無効	2.08%

**問2** 総会の開催施設の希望を教えてください。

○ホテルなど設備の整ったところ	23.96%
○貸会議室など費用のかからないところ	67.71%
○その他	6.25%
○無効	2.08%

**問3** 総会の会費として適当だと思ふ金額を教えてください。

○3,000円未満	9.38%
○3,000円以上5,000円未満	64.58%
○5,000円以上8,000円未満	21.88%
○8,000円以上	0.00%
○その他	1.04%
○無効	3.13%

**問4** 総会と同時開催する事業の希望を教えてください。

○著名人による講演会	36.46%
○まちづくりに関する勉強会	48.96%
○鴨川市執行部との市政に関する懇談会	54.17%
○その他	6.25%
○無効	5.21%

**問5** 適当だと思ふ会報の発行回数を教えてください。

○年1回	37.50%
○年2～3回	52.08%
○年4回以上	2.08%
○発行は必要ない	1.04%
○その他	5.21%
○無効	2.08%

**問6** 今後、新たに会報への掲載を希望する情報等を教えてください。

○市内で実施されるイベント等の情報	
○会員から寄稿された記事	
○観光業など鴨川市内の産業に関する現状報告	
※上位3件のみ掲載	

**問7** 適当だと思ふ年会費額を教えてください。

○年1,200円程度	38.54%
○年2,400円程度	30.21%
○年3,600円程度	14.58%
○導入に反対	6.25%
○その他	8.33%
○無効	2.08%

**問8** 鴨川ふるさと会についての自由意見があれば教えてください。

- いつも会報等を楽しみにしている
- よくやっているといる。現状の運営ペースでよいと思う
- 会員間の交流がより一層活発になるような取り組みをしてもらいたい

※上位3件のみ掲載

## ふるさと納税の 実績報告

市では、平成20年度からふるさと納税の受け入れを実施していますが、この度、平成22年度の実績がまとまりましたので報告します。

昨年度においては、総額として、280万1000円(87件)の寄附をいただき、平成20年度からの累計では、712万1000円(203件)となりました。

このうち、会員の皆様からいただいたご寄附は、昨年度(12件)であり、累計では1

89万円(40件)に上ります。この場をお借りして、ご寄附をいただいた皆様に御礼申し上げます。

なお、ふるさと納税に関しては、「特定の具体的な事業に絞って、寄附を募集してはどうか」という趣旨のご意見を会員の皆様から多くお寄せいただいています。

こうしたご意見を理事会で顧慮した結果、本会報に同封しました寄附申出書では、あらかじめ使途希望として「鴨川市の歴史的資源の保全・活用に関する事業」と記入させていただきます。

これは、「自然と歴史を活かした観光・交流都市」という、鴨川市が設定している将来像や会員の皆様からのご意見に基づき、理事会において選定したものです。

日蓮や頼朝、波の伊八、嶺岡牧など、郷土の歴史を紐解き、活用していくことは、まちおこしの一手段であるのみならず、この地域で学び・暮らす子どもたちの誇りや自信に、そして郷土愛に必ずしや結びつくものと信じています。

こうした趣旨にご賛同いただき、本年度も市へのふるさと納税についてご協力くださるようお願いいたします。